2018年度日本気象学会奨励賞の受賞者決まる

受賞者：松岡直基（株式会社北海道気象技術センター）

研究題目：北海道における吹雪・豪雨等の災害気象に関する普及啓発活動

選定理由：松岡直基氏は，1975年に北海道大学工学部応用物理学科を卒業後，財団法人日本気象協会北海道支社を経て，現在は株式会社北海道気象技術センターにおいて代表取締役となっている．日本気象協会入社後は，気象がもたらす災害に係わる様々な分野に携り，1994年に気象予報士の資格を取得した．

松岡直基氏は防災分野に気象技術を普及させる活動を精力的に行っている．2003年から気象災害が発生した際の気象の特徴をまとめて防災機関に配布し，災害復旧や防災対策に貢献している．2016年８月北海道豪雨災害では，土木学会や砂防学会の現地調査団に加わり，気象の分野から報告書のとりまとめや学会発表を行い，土木研究所寒地土木研究所の月報にも寄稿している．大学との連携も精力的に行っており，北海道大学との共同研究では近年北海道で増加する線状降水帯についてその出現傾向や特徴をまとめている．また，吹雪と気象災害の関連性を吹雪量やリスクマネジメントの観点から調査・研究を行い，吹雪現象の定量化のために画像解析の研究も北海道大学と行っている．気象教育や普及では，国や北海道の道路・河川管理者，自治体や町内会向けの防災気象講演を毎年多数行い，2016年からは北海道防災教育アドバイザーとしても活動している．

このように，松岡直基氏は，単に地方における気象の普及啓発の調整役としての役割だけでなく，大学や研究機関などアカデミアとの協働により気象学の最先端研究に対する貢献も大きい．地域に根差した活動の場は非常に幅広く，気象がもたらす災害や産業への影響を考える欠くことのできない諸分野（河川・水資源工学，農業土木，砂防，雪氷，交通運輸，再生可能エネルギー）の見識も深い．そのような見識にくわえ，長年にわたる活動を通じて得た幅広い人脈を縦横無尽に活かし，気象災害に関する講演や企画を北海道の地域に根差した形で精力的に行っている．また，気候変動適応研究推進プログラムへの参加を通じて，気候変動に係る最新の知見を地域へと還元する役割も果たしている．松岡直基氏は民間企業の役員の立場にありながら，学会が担うべき市民とアカデミアの橋渡しの役割という点で，国内において模範となる活動をされている．

以上の理由により，日本気象学会は松岡直基氏に2018年度奨励賞を贈呈するものである．

参考文献

1．Yamada, T. J., J. Sasaki and N. Matsuoka, 2012: Climatology of line-shaped rainbands over northern Japan in boreal summer between 1990 and 2010. Atmos. Sci. Lett., **13**, 133-138.

2．鵜木啓二，山田朋人，稲津　將，佐藤友徳，松岡直基，中村和正，2015：降水予測値を用いた北海道の土壌流亡量予測．平成27年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集，660-661.

3．松岡直基，2017：2016年８～９月の北海道における豪雨災害に関する報告１　気象の概要について．寒地土木研究所月報，(769)，42-47.

4．松岡直基，2015：北海道の土砂災害に関する緊急セミナー報告１　北海道における2014年８月，９月の豪雨の概要について．寒地土木研究所月報，(746)，48-52.